

ユネスコ世界ジオパーク再認定決定！

ユネスコ世界ジオパークである地域には、4年に1度の再審査が義務付けられています。洞爺湖有珠山ジオパークでは、2019年7月に、審査員2人による再認定審査が行われ、2020年1月21日に「再認定」が発表されました。これで今後4年間、ユネスコ世界ジオパークとして活動してい

くことが認められました。

洞爺湖有珠山ジオパークでは、この地域ならではの大地の特徴を活かし、地域振興、教育活動に、力を入れて取り組んでいきます。今回の審査について、審査員からは以下の点が評価されています。

評価されたポイント (第4回ユネスコ世界ジオパーク評議会議事録の要約)

- ・2017年の審査で出された勧告事項は、期待を超えるほど、満足に達成された。
- ・有珠山の災害遺構は優れた教材である。旧国道230号の周辺は、環境省との連携のもと、地形の保護のために新たなゾーニング(範囲区分)がなされ、住民による除草作業で維持されている。
- ・減災文化はジオパークに認定される前から高レベルに確立され、その後、さらに向上した。
- ・この地域の減災教育はすべての火山地域にとって最良の事例である。
- ・火山マイスターは優れた教育活動を行い、世界のジオパークの中でも特筆すべき特徴である。
- ・ジオパークとユネスコ世界文化遺産を目指す推進組織間には、十分な協力体制がある。

- ・伊達市に「だて歴史文化ミュージアム」が新設され、特別な文化、祖先の歴史が紹介された。
- ・アイヌ民族の言語や文化を紹介する取り組みが進んでいる。
- ・公式ロゴマークが随所に追加され、ジオパークの認知度を高めている。
- ・住民団体が草の根のジオパーク活動を継続し、地域の魅力を高め、保全に協力している。
- ・地域のパートナー企業によって、ジオパークの効果的なPRが進められている。
- ・北海道大学総合博物館との連携協定はさまざまな活動にメリットが期待できる。

2019年7月の現地審査の様子

現地審査では、ジオパーク内の見どころを巡り、地形の成り立ちと、そこで育まれた文化や産業の実際の姿を見てもらいました。

審査員：パトリシオ・メロー教授(ブラジル) ヘニング・ツェルマー博士(ドイツ)



だて歴史文化ミュージアム



噴火湾(豊浦町海岸) ツアー



そうべつ情報館 i
火山防災学び館



洞爺湖温泉 足湯



有珠善光寺自然公園



天然豊浦温泉しおさい



三松正夫記念館



有珠山火口原展望台